

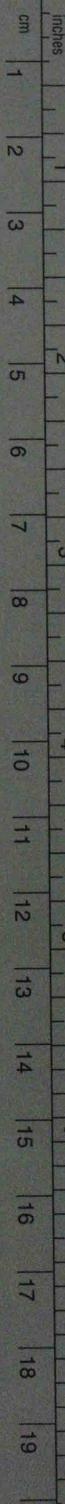
41083

教科書文庫

4
760
52-1912
2500
300171

## Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



## Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



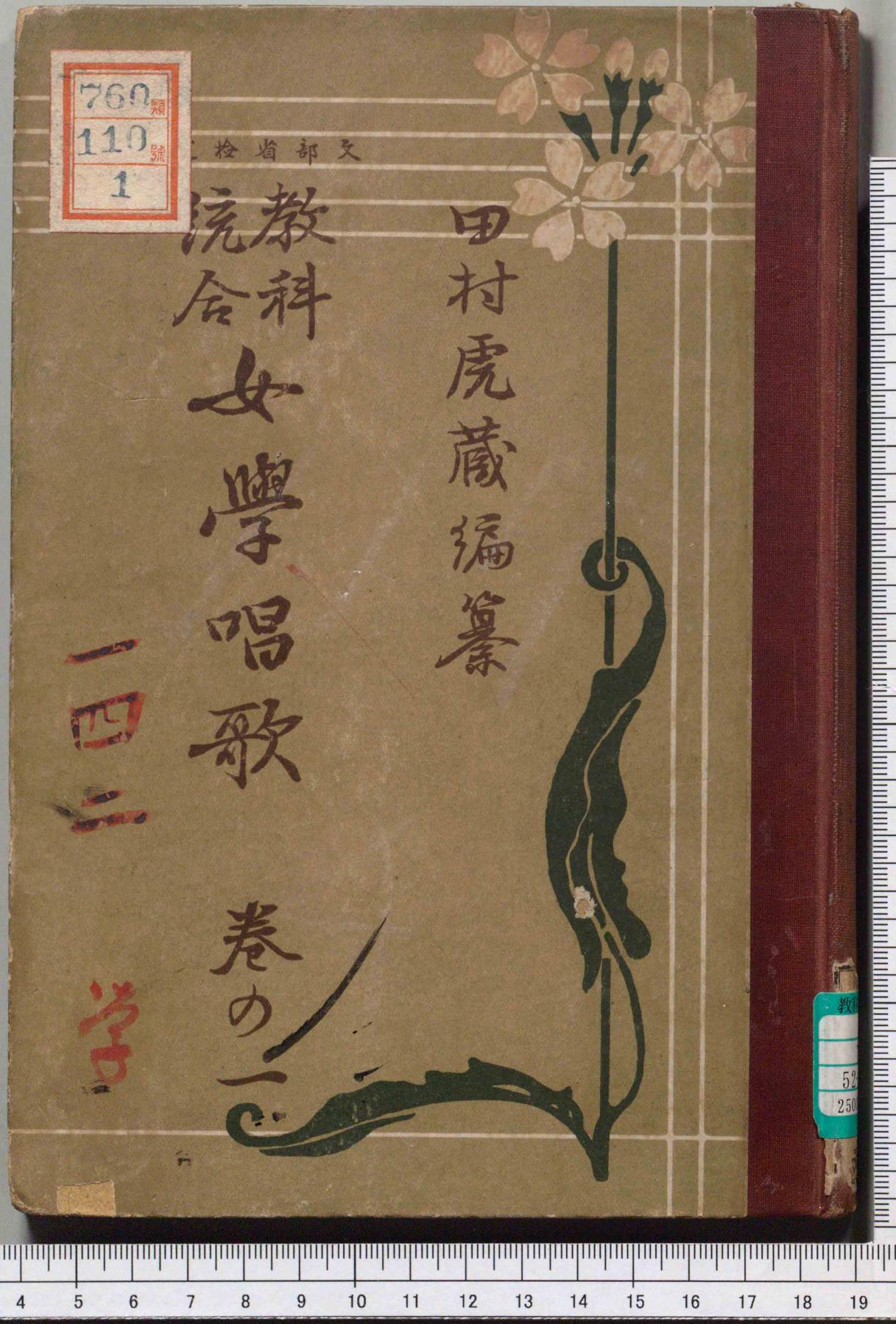
© Kodak 2007 TM: Kodak

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

教科書文庫

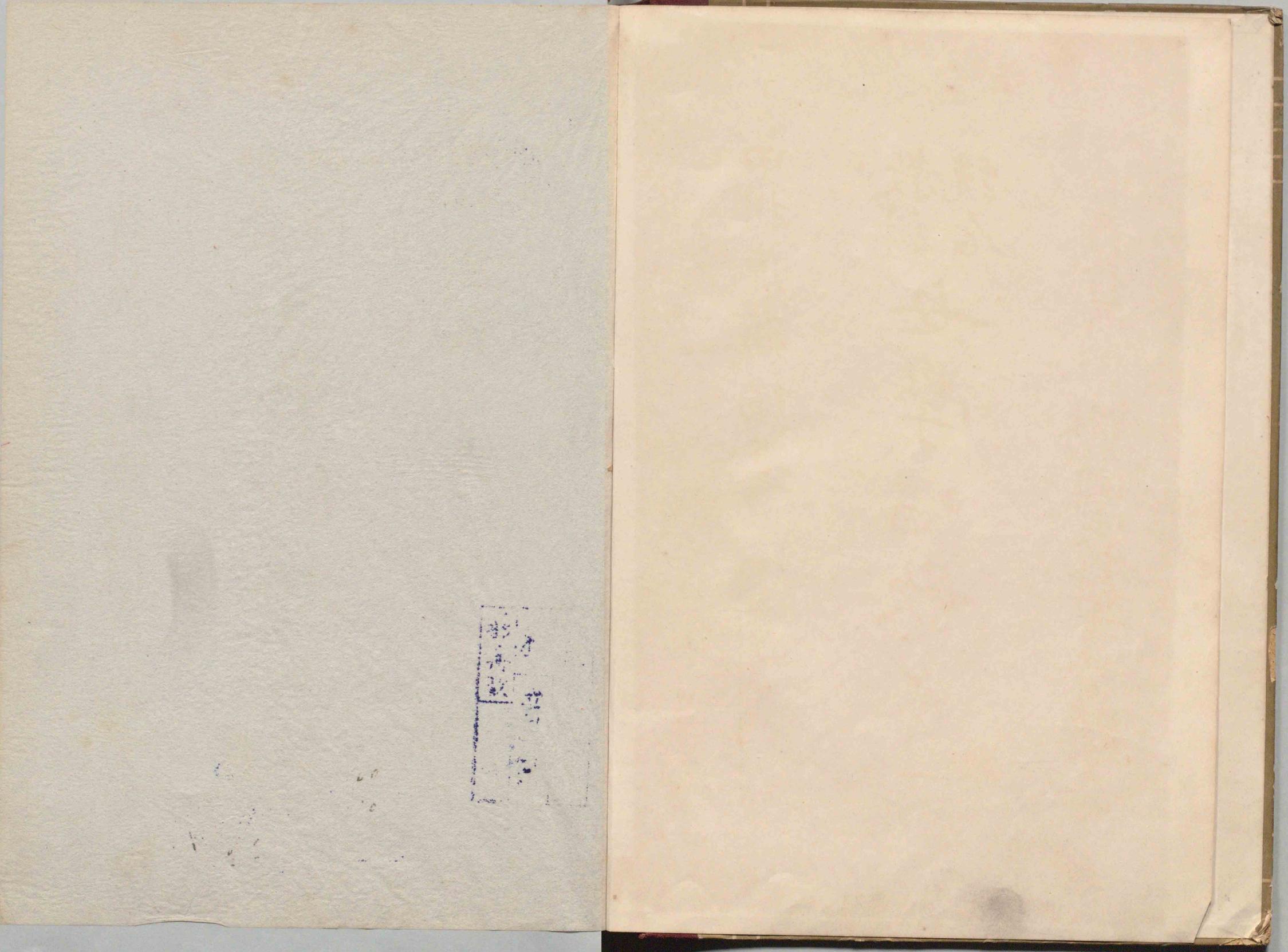
52

2500

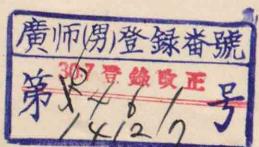


3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20





發行所  
株式會社國定教科書販賣所



教科統合女學唱歌卷之一



文部省檢定済

一部冊數	和	縣第一四二號
	音	

廣  
師  
教  
科  
統  
合  
女  
學  
唱  
歌  
編  
纂  
田  
村  
虎  
藏  
印

広島大学図書

2500300171



緒 言

- 本書は、高等女學校の唱歌教授に、最も適切なる唱歌教科書を供給せんとて、文部省所定の高等女學校教授要目に準據して編纂したるものなり。而して、その教材は、全部四巻に分ち、各學年に各、一冊宛を配當したり。
- 本書は、又、女子師範學校の音樂科程度を参考して作りたれば、同校の教科書にも適用し得べく、この他、同程度の女學校にも、亦適用することを得べし。
- 本書編纂の際、特に編者の注意したる諸點を擧ぐれば、左の如し。
  - (1) 題目。及びその事實は、全國高等女學校に、最も廣く採用せられたる教科用書につきて、國語・修身・地理・歴

史の教科に關係を有する事項、並に、生徒の實際生活に親しき事項等に之を取り、以て、各教科の統一を圖り、生徒の心理的要要求に適應せしめんと力めたり。

(2) 歌詞。本邦名家の手に委し、各學年國語科の程度を酌して之を作り、平易・流暢なるものより、漸次、優美・高尚なるものに進め、何れも清新にして詩的興味に富めるものを選擇し、以て、女子の純潔なる性情陶冶に資せんとしたり。

(3) 樂曲。概ね歐米大家の作、並に、その民歌・國風歌にして、特に我國女子の心情に適するものを選擇し、間々編者の作を加へたり。而して、生徒の音樂的發達の

程度に鑑みて、その音程・音域の如何を審査し、初は平易・快活なるものより、漸次、優大・諄美なるものに進め、以て、崇高なる審美的感性を育成せんことを期せり。

(4) 作者。本書毎歌曲の作者を明記したるは、一は、編者の作者に對する德義にして、一は、作者の責任を明瞭にせんが爲なり。加之、在來の獨逸樂風の外に、英・露・佛・伊の樂曲を取り、作者と共にその國名をも記入したり。是れ、歐米各國の樂風を紹介し、樂的趣味を豊富ならしめん爲にて、編者の最も苦心したる所なり。

(5) 教材。第一學年には唱歌心得と單音唱歌、第二學年に

は單音唱歌、第三學年には單音唱歌・二部輪唱歌・二重音唱歌、第四學年には單音唱歌・二重音唱歌・三部輪唱歌・三重音唱歌を配當し、歌曲の調和につきても、編者に於て大に注意したり。

(6) 附錄。樂典大要・發聲練習・音程練習は、何れも唱歌學習上の基本教練にして、之を各學年に配當し、每卷に附錄として之を收めたり。

明治四十二年八月三十日

編者識す

# 教科文學唱歌 卷の一

## 目次

### ○唱歌心得六則

第一 唱歌とは何か

第二 唱歌の利益

第三 唱歌する時の心得

第四 音階と階名

第五 發聲上の注意

第六 樂譜とは何か

### ○單音唱歌

〔第一學期〕

一	二	三	四	五	六	七	八
櫻	春の旅	學の友	地久節	雲雀	愛國	水邊の螢	終業式
二	三	五	七	九	二	三	五

目 次

(第二學期)

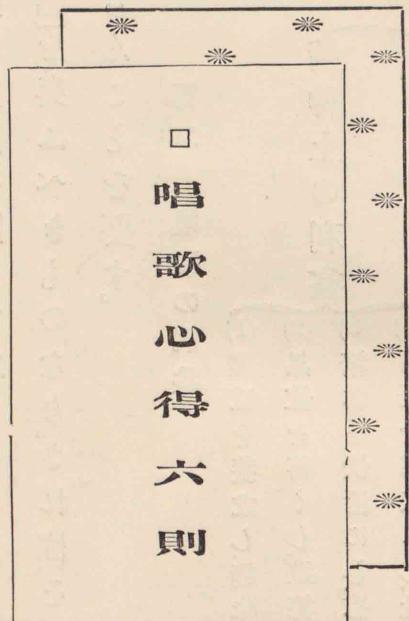
九 海邊の夜.....	二七
一〇 小式部内侍.....	二元
一一 運動會.....	三二
一二 日の御旗.....	三三
一三 孝女.....	三五
一四 秋の夕べ.....	三七
一五 篱の菊.....	三九
一六 雁がね.....	四一
一七 旅情.....	四四
一八 始業式.....	四五

一九 新年.....	五七
二〇 女子の務.....	四九
二一 舞踏.....	五一
二二 如意輪堂.....	五三
二三 雪中の梅.....	五五
二四 鶯.....	五七
二五 送別の歌.....	五九

○附錄  
○樂典大要  
○發聲練習  
○音程練習

(第三學期)

唱歌心得六則



## 唱歌心得六則

### 第一 唱歌とは何か

唱歌は、歌詞に曲節を附して之を歌ひ、よりて以て吾人に美的快感〔即ち美感〕を與ふべきものなり。されば、その歌詞・曲節は、共に雅正・諄美ならんことを要す。

### 第二 唱歌の利益

- 精神上の利益
  - (1) 美感を養成し、趣味を高尚にする。
  - (2) 品位を善くし、道德心を高む。
  - (3) 精神を快活にし、慰安を與ふ。
  - (4) 言語を明瞭にし、社交上の一資格を作る。

### ○唱歌

- 身體上の利益
  - (1) 耳管の敏捷を圖る。
  - (2) 喉頭を發達せしむ。
  - (3) 身體の健康を増進す。

### 第三 唱歌する時の心得

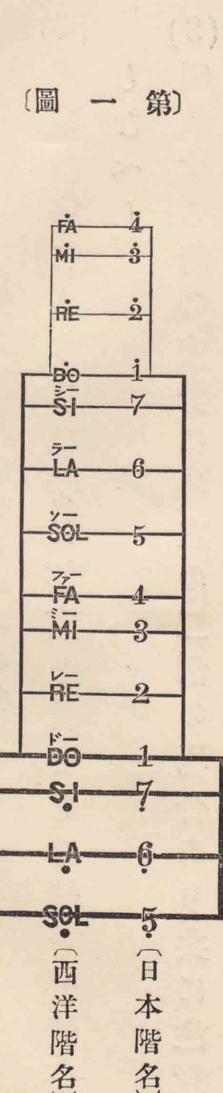
- (1) 唱歌教室にありては、特に靜肅を旨とし、心情を快活・平和ならしむべし。
- (2) 唱歌する時の姿勢には、左の二個の場合あり。共に注意して、各自姿勢を正すべし。
  - 〔イ〕立唱。 唱歌する時は、立唱を以て本體とす。その姿勢は、體操に於ける「氣を付け」の場合と同じ。
  - 〔ロ〕座唱。 腰掛けたる儘にて唱歌することを云ふ。座唱は、便宣上行ふ所の略體なれば、弱音若くは中等の強さまでにて歌ふべし。その姿勢は、深く腰を掛け、腹部に皺のよらざる様すべし。
  - (3) 唱歌の教科書、又は唱歌筆記帳を持ちて歌ふ場合は、左手のみにて支ふるか、又は、左手にて之を支へ、右手は軽く添ふるまで

にし、殆んど視線の高さまで之を上ぐべし。此際、特に頭の下らぬ様注意せんことを要す。

(4) 善く歌はんには、善く聽かんことに注意するを要す。故に、學習者は、常に教師の發聲、又は樂器の音に傾聽すべし。

#### 第四 音階と階名

(1) 唱歌の門に入らんには、先づ一音と半音との差別を聽識しがつ之を歌ひ別けざるべからず。而して、樂音を圖示するに、一音は幅廣き間隔を以て之を表はし、半音はその半の間隔を以て之を表はす。(第一圖)

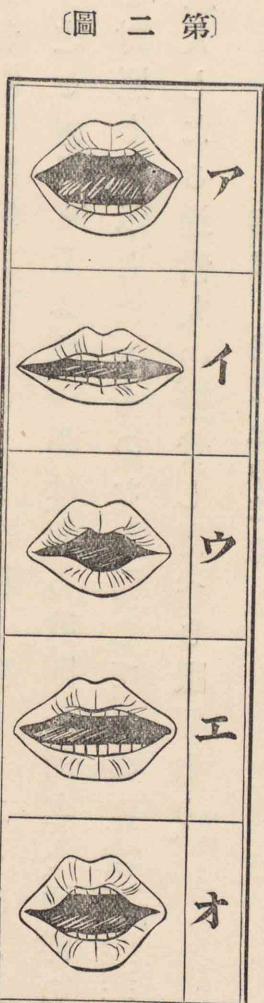


- (1) 聲は、唱歌の根本材料なり。而して、通常人は、聲の正當なる練習によりて、無限に之を美的音聲と醇化し得べきものとす。故に、學習者は、又その發聲に注意して、聲の鍛練をなさざるべからず。
- (2) 斯の如く、一定の形式によりて、一音と半音とを排列せるものは、之を音階と云ひ、之を圖示せるものを音階圖と云ふ。
- (3) 第一圖の音階は、西洋音階の一種にして、之を長音階と稱し、音樂學習者は、先づその歌ひ方に習熟すべきものとす。
- (4) 長音階の階段には、右の如き名稱を附して之を唱ふるものとす。之を階名と云ふ。第一圖は、即ち我國の階名と、西洋の階名とを對照して示したるものなり。而して、この區域 FA4-SOL5 は、成人したる通常人の、發音し得べき限界なり。

#### 第五 發聲上の注意

- (1) 聲は、唱歌の根本材料なり。而して、通常人は、聲の正當なる練習によりて、無限に之を美的音聲と醇化し得べきものとす。故に、學習者は、又その發聲に注意して、聲の鍛練をなさざるべからず。

- (2) 聲の鍛練とは、純正明瞭——充實ならしめて、而も強弱自在に、かつ共鳴ある様發聲せんことを力むることなり。而して、これが練習の基礎となるものは、口形の開閉自由なると、五母音の正確なるとにあり。五母音の口形は左の如し。



- (3) 學習者は、右の口形を参考として、時々五母音の練習を力むべし。他の諸音は、之を基礎として、順次正確なる發音をなし得るに至るべし。

- (4) 發聲の際には、絲を引出すが如き心持にて、弱く細く發聲し始

め、以て、常に美的音聲を發せんことに注意すべし。強いて發聲し、爲に強暴なる音を發するが如きは、深く戒めざるべからず。  
(5) 寒冒、その他の病氣に罹り、或は變聲期に際せるが爲に、發聲上困難なる時は、教師の許可を得て、一時、發聲を止め、その期間は傍聽するを可とす。

#### 第六 樂譜(ともじて譜ふ)とは何か

- (1) 音樂の曲節の模様を、可視的に表はしたるものを樂譜(又は譜)と云ふ。樂譜には、その種類頗る多けれども、最も完全なるものは、左の二種類とす。

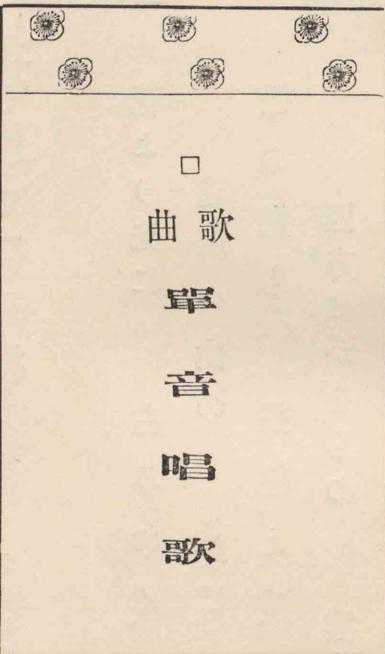
#### 〔イ〕略譜。

階名を土臺とし、これに數種の記號を加へて構成したものにして、特に初學者に適せるものなり。我國の略譜は、西洋の略譜よりも、善く作られたり、と稱せらる。

## 「口」本譜

(2) 五線を土臺とし、これに數種の記號を加へて構成したる西洋樂譜を、我國にては特に本譜と云ふ。世界に存する樂譜中、最も完全なるものにして、その使用的程度も、最早、萬國共通となれるものなれば、或は之を普通樂譜とも稱し、我國に於ても、高等小學校、並に中等程度以上の學校にては、大抵之を採用するに至れり。

(2) 樂譜に關する一切の事項を説明し、かつ、その性質を吟味するものは、之を樂典と云ふ。



No. 1.

櫻

櫻

優美ニ  
編者

(一) ハナヨリミ サキトニニ シクレミノユコ クル  
(二) ハナノミ サクレミノユコ クル

ヨシノノヤマノアサボラケヨ  
スミダノカハヌフボラクヨ

マツノアラシモコエボタロニテ  
ミヅモアラシモコエボタロニテ

ヨモニカラヌクモモナシシ

一 花より先に 白みゆく、  
吉野の山の 朝ぼらけ。  
松の嵐も 聲絶えて、  
四方にかをらぬ 雲もなし。

二 花のみ後に 暮れのこる、  
隅田の川の 夕月夜。  
水も堤も おぼろにて、  
踏めばかをらぬ 雪もなし。



第一

櫻

大和田建樹

櫻

一

No. 2.

## 春の旅

春の旅



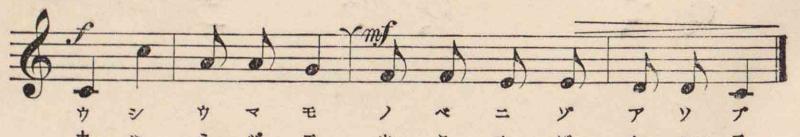
(一) ナチコチカスミテサクラハヤマ  
(二) ナノハナカナリテコテブハマヒ



ハルカゼノドドカリニヒバクヒスソラ  
ヤナギハミドドカリニヒバクヒスソラ



タビノスルハイタマビコダツヨケシレタ



ウカシハウマヅモモノウベタニゾアリタブ

春の旅

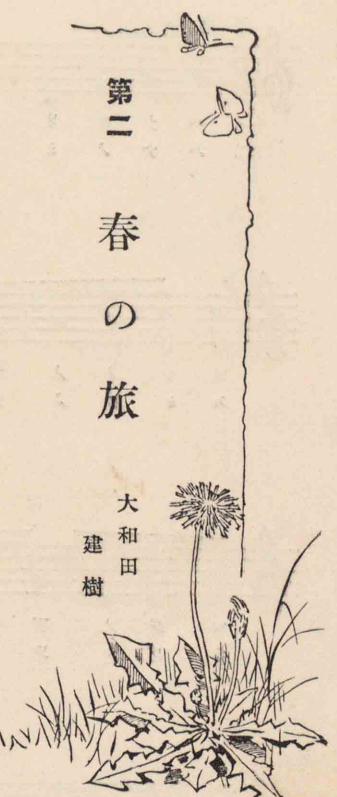
## 第二 春の旅

大和田  
建樹

一 をちこち霞みて  
遠春風のどかに  
近長閑旅するは  
桜は山、雲雀は空。  
今こそよけれ、  
野邊にぞ遊ぶ。」

二 菜の花かをりて  
牛馬も  
柳はみどりに  
鶯鳴く。  
樂しきは  
胡蝶は舞ひ、  
川水も

歌をぞ歌ふ。』  
旅立つあした、



三

# No. 3. 學の友

學の友



(一) タ ノ シ キ コ ノ ニ ハ ウ レ シ キ ソト ノ モ  
(二) 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、



ト レ ハ テ  
ヒ ハ ナ サ ク ヤ ヘ  
ム ニ フ ベ ニ ヲ ウ チ  
シ ミ フ ベ ニ ヲ ウ チ  
ア ミ フ ベ ニ ヲ ウ チ



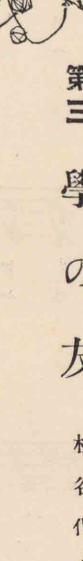
ノゾヅキヨルナミエハクニサルヤノダノルチミヨルロル

10. The following table shows the number of hours worked by each employee.



ココ ノカ ミグ ハニ トイ ハザ ニヤ ワア ガソ タバ カマ ラシ

たのしきこの庭 うれしき園、  
智慧には花さく 八重一重、  
徳には實る 千萬の、  
このみはとはに わが寶、  
樂しきこの庭 嬉しき友、  
朝に夕べに うち群れて、  
花咲く枝や 實る樹の、  
木蔭にいざや 遊ばまし。』



# 第三學の友

杉谷代水

第三 學の友

杉谷代水



No. 5. 雲雀

雲雀

愉快ニ

察歌(獨)

(一) ムラサキヨロコクヨスミサギフ  
 アガサレリヒノバムアムユ  
 (二) ミドリコヨヒバリヨルヨ

レハラサカケリクチヨチヨーチヨー<sup>p</sup>  
 ノノトネコガニラヒソヒーソヒーソー

チヨウターヒテアガレヒラ  
 ヒーソウターボエヒソメス

ヒーラーヒーラーヒーラカースミノウチニク  
 スーラースーラースーラトーブヤノゴト

一九

第五 雲雀

雲雀

一八

一 紫色こく、董は咲けり、朝空高く。  
 揚れよ雲雀よ、歌ひて揚れ、霞のうちに。  
 ナヨ、ナヨ、ヒラ、ヒラ、  
 ヒソ、ヒソ、スラ、スラ、

二 緑にけむれる、麥生の床に、夕べの塘。  
 落ち來よ雲雀よ、歌聲ひそめ、飛ぶ矢の如く。



桑田春風

No. 6. 愛國

愛國

社大ニ 西洋曲

(一) セコナカトノ  
(二) コニアコ  
(三) ナコナ

キリモ  
ルトチ  
牛キミ  
ナコナ  
キリモ

クタコニミコ  
ブミロ  
一  
リナヲ  
マコア  
モゾハ  
リリセ  
テテテ

ヒミミゴクク  
ロニニ  
ハノノ  
オタト  
ノメミ  
オニチ  
ノハバ

ワイハザノカ  
チチレ  
一  
バモヨ  
イチツ  
ソシト  
シムメ  
メナヨ

二 三

一 世界に類なき　國ぶり護りて、  
日ごろはおのく　業をばいそしめ。  
二 事ある時こそ　民みな舉りて、  
み國の爲には　命も惜むな。  
三 男子も女子も　心を合せて、  
御國の富をば　圖れよ力めよ。



桑田春風

二〇

愛國

## 第七 水邊の螢

佐々木信綱



一　來よや、　來よや  
門邊の川は　水おと涼し、  
野越え　山を越えて。』

二　來るよ、　來るよ  
螢。

三　友よ、　來よや早く。  
み空の星と　見まがふ光、  
團扇を持ちて　箇の葉もちて、  
月の　出でぬうちに。』

### No. 7. 水邊の螢

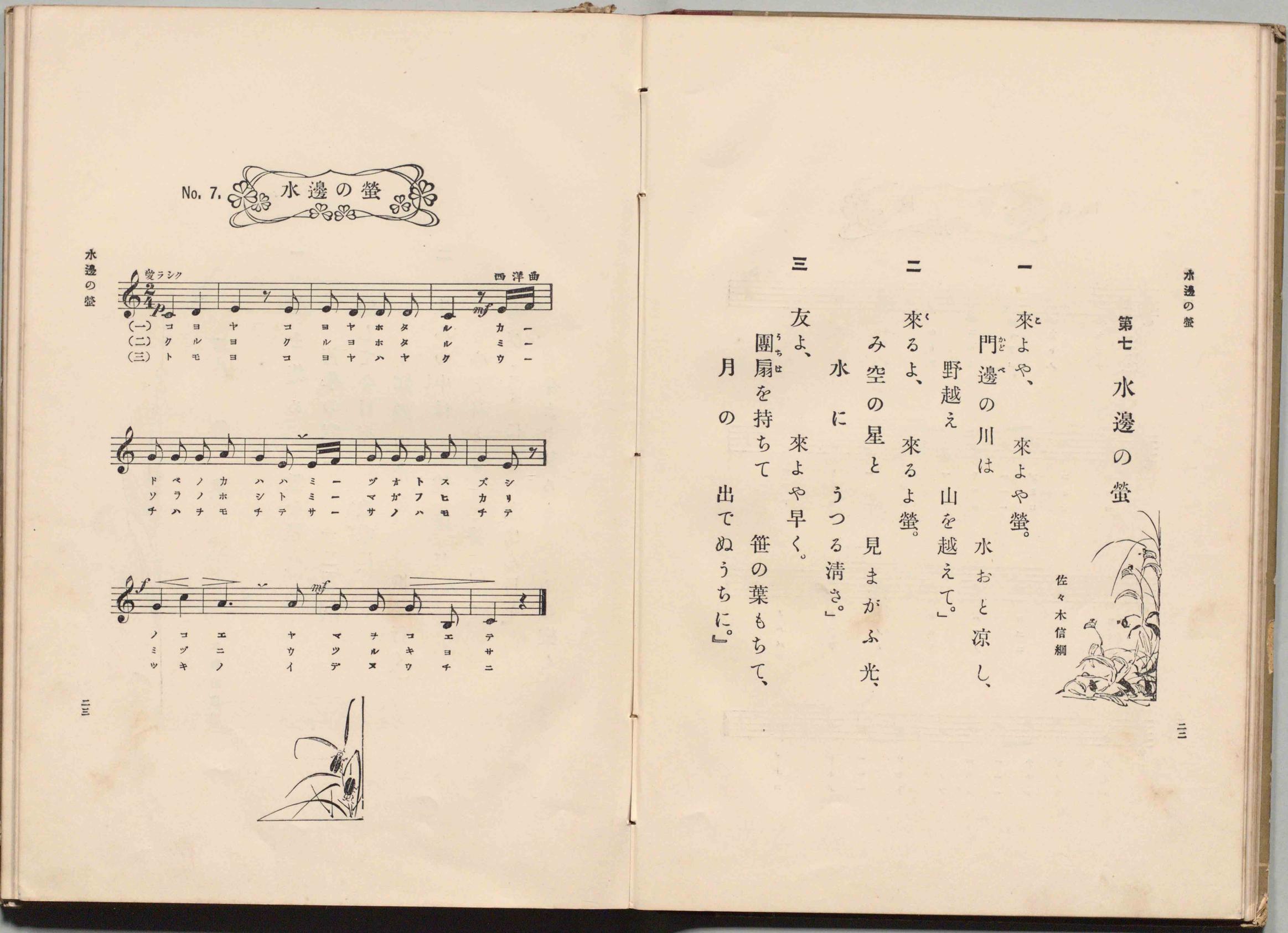
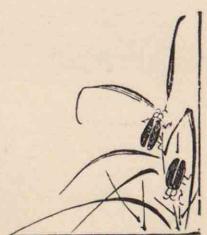
西洋曲

愛ラシク

(一) コヨルモ ヤコヨル ヨルヨ ヨハタタヤ ルルク カミウ 一一一  
(二) クルモ ヨクコ ルヨ ヨハタタヤ ルルク  
(三) トヨヨコ ヨルヨ ヨヤ ホハタタヤ ルルク

ドソチ ベラハ ノノチ カホモ ハシチ ハトテ ミミサ 一ーー ツマサ トフハ オガノ スヒヨ ズカチ シリテ  
ソチ ハハ ナチ モモ チチ テテ マサ トハ ガノ ヒヨ カチ リテ

ノミツ ゴヅキ エニノ ヤウイ マツデ チルヌ エヨチ テサニ

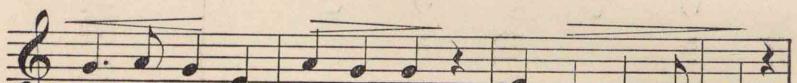


No. 8. 終業式

終業式



(一) ホタルチアツメ  
(二) ヤスミノウチハ



クガクロノトマドニチ  
ココロノトミドニチ



スゴシタビケフゾワガインヘニ  
フタタビココニアハインヘニ



チシマキノリヒカリルチニナナヒユクシ

二五

一 螢を集め

雪を積み、

苦學の窓に  
過して今日ぞ  
一一二學期、

我家に、

二 休みの中は 知識の光を  
心と身とを 健康に、  
再びここに 養ひて、

逢はん日を、  
今より契るも あな樂し。』

終業式

第八 終業式

大和田建樹

二四

No. 9. 海邊の夜

海邊の夜



二七



一 父はいづこ 更け行く夜半に、

遙けき海原、 靜けき月影、

我身の外に 人はあらず。」

二 舟を待ちて 磯邊に立てば、

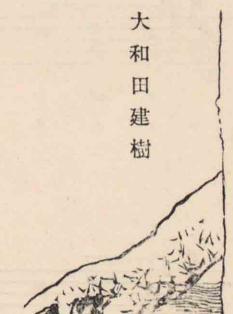
寒けき沙風、 淋しき波音、

月より外に 何も見えず。』

海邊の夜

第九 海邊の夜

大和田建樹



二六

No. 10. 小式部内侍

小式部内侍



二九



一 ながれ盡きせぬ その才は、  
母の名なれや 言葉の泉。  
父の名におふ 橋の、

二 香よりも高き 歌のほまれ。  
ねたみ心か 宮人が、  
使ひいかにと いふざれ言の、  
袖をひかへて あなゆかし。  
まだふみも見ぬ 天の橋立。』

小式部内侍



二八

No. 11. 運動會

運動會

快活ニ パーリー (英)  
 (一) タシノクウタヘ 運動會  
 (二) 、 、

A musical score for a single melodic line. The score consists of a staff with a treble clef, a dynamic marking 'mf', and a key signature of one sharp. The melody is composed of eighth and sixteenth note patterns. Below the staff, lyrics are written in Japanese: 'ウタヒテアソベ 運動會'. The notes correspond to the lyrics as follows: 'ウ' (two eighth notes), 'タ' (one eighth note), 'ヒ' (one eighth note), 'テ' (one eighth note), 'ア' (one eighth note), 'ソ' (one eighth note), 'ベ' (one eighth note), '運' (one eighth note), '動' (one eighth note), and '會' (one eighth note).

A musical score for 'Sakuramachi' featuring a single melodic line on a treble clef staff. The lyrics are written below the notes in Japanese. The melody consists of eighth and sixteenth note patterns.

111

ウチヤーフ テフトモロトモ一ニ  
コテフハ ハナニホムル一アニ

# 第十一運動會

前田純泰

運動會

第十一運動會

前田純孝

No. 12.

日の御旗

日の御旗



三三



一 照る日の御旗は 世界のうちに、  
たぐひぞ稀なる 皇國のしるし。  
外つ國人さへ 光を仰ぎて、  
御稜威（まこと）を畏む 君が代たふと。』

二 照る日の御旗は 世界のうちに、  
ほまれぞ轟く 皇國のしるし。  
陸にも海にも かざさぬ限なく、  
御稜威に靡ける 君が代たふと。』

日の御旗



二十第

日の御旗

桑田春風

三三

No. 13. 孝女

孝女



三五



國風歌(獨)

孝女 第十三

一 月は涙えて 木枯すさぶ、  
社頭にひとり ぬかづく少女。  
二 髪はそゝけ 面はやつれ、  
憂に堪へぬ 幾日になりぬ、  
貧しきたつき 医師も訪はず。  
母は病みて あはれ今は そぞろの姿。  
あはれ今は わが身にかへて 救はせ給へ。

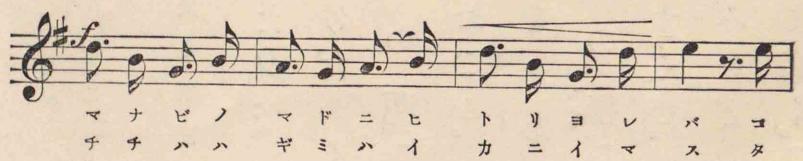
杉谷代水

孝女

三四

秋の夕べ

秋の夕べ



三七

一 行きかふ雲のかげは寒く、  
 吹きくる風の おとは淋し。  
 學の窓に ひとり凭れば、  
 心もしめるよ 秋の夕べ。

二 鳴きゆく雁の 聲を聞けば、  
 ふるさと戀し わが家こひし。  
故郷  
 父母ぎみは いかに在ます、  
 玉章かかばや いざや書かん。』

秋の夕べ

第十四 秋の夕べ

佐々木信綱

三六

No. 15. 篱の菊

優美ニ フエイゼール(佛)

(一) オクツユキヨキアシタエフゴベルセ  
 (二) アメカゼシノギヤモニ古ス  
 (三) オモヘバメテタナレノス



三九

内閣

籬の菊

三八

第十五

籬の菊

武島羽衣



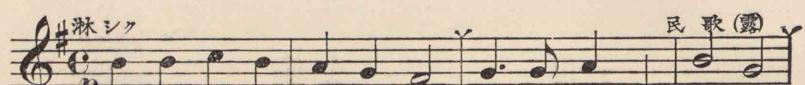
一 おく露きよき あした夕べ。  
 えならぬ色香、けだかく匂ひ、  
 垣に笑む 菊の花。

二 雨風しのぎ 霜におごる。  
 千草のほこり をとめの 鑑、  
 たふとしや 誇りの操。

三 思へばめてた 汝のすくせ。  
 かたじけなくも 宿世みかどの御紋、  
 揚げよ名を 世に高く。

No. 16. 雁がね

雁  
が  
ね



(一) アキカゼサムクヌスキヲフキロ  
(二) ツキカゲニシニカタムクコロ

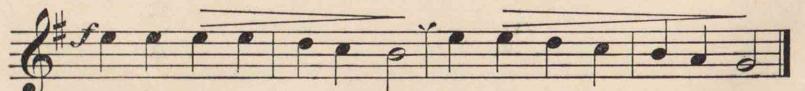


カリガネタカククモキユナクユハ



サビシキタビノコヨヒノツキモ  
オトヅレタエシコキヤウノツキモ

四

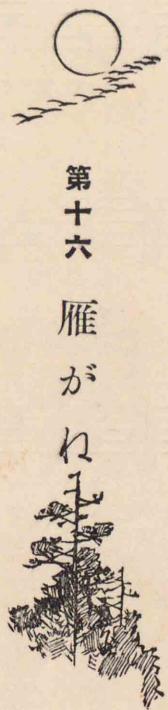


ガモヘバアスハコキヤウノツラニ  
、、、、、、アヒミンタノシ

一 秋風さむく すきを吹き、  
雁がね高く 雲井を行く。  
  
二 淋しき旅の 今宵の月、  
思へば明日は 故郷の空に。  
  
月影西に 傾くころ、  
雁がね遠く 更け行く夜半。  
  
音づれ絶えし 故郷の友、  
思へば明日は 逢ひ見ん樂し。』

雁  
が  
ね

第十六 雁がね



大和田建樹

No. 17. 旅 情

旅情

感入メテ 民歌(獨)

(一) カネ ハナ リカ テト モシ ビキ  
 (二) ハハ ヤイ カニ チチ サナ キ

旅情

四三

二

鐘は鳴りて 遠  
をちの里に ともし火、  
宿やいづこ ほのめく。  
海路・山路 悲しゆかし  
行けどゆけど をさなき、  
鐘は鳴りて 待つらん。  
をちの里に おもほゆ。  
うちに越え、 ふるさと、  
はてなし。 歸らん。  
ともし火、 またよく。』

旅情

第十七 旅情

杉谷代水

四三

No. 18.

始業式



(一) ウーシーノア ユミーノ オソクトモ  
 (二) ヒートモマ ナビテノチニコソ



ヤーススマズ ユカバチサトマ テ  
 マーコトノトクーハ アラハル レ



マナビノミチハ トホケレド  
 ミウタノココロ ミニーシメテ



マーヴーフミ イダースケフヨリゾン  
 ハーベーマン トモニイソシマ

一 牛の歩みの 遅くとも、  
 休まず行かば 千里まで。  
 まなびの道は 遠けれど、  
 先づ踏みいだす 今日よりぞ。  
 二 人も學びて 後にこそ、  
 まことの徳は あられ。  
 誠み歌のこゝろ 身にしめて、  
 はげまん共に 勤いそしまん。』



桑田春風

No. 19. 新年

新年



四七

一 あな嬉し 年の始、  
あな樂し 睦月の今日。  
松が枝は 門に榮え、  
君を千代と 祝ふなり。

二 新しき 年を迎へ、  
日に月に 榮ゆく御代。  
日の御旗 軒に靡き、  
君の御稜威 示すなり。

第十九

新年

大和田建樹

新年

四六

No. 20.

## 女子の務

平穏ニ モーリアート(獨)

(一) ミ メー ヨ キ モ ナ ニ カ セ ン コ コー  
 (二) ト ツ ャ ギ テ ハ ヒ ト ノ ツ マ ヤ ガ

ロ バ ヘ オ コ ナ ヒ ゾ ト ク チ コ ソ ミ ガ ケ  
 テ マ タ ハ ハ ツ ナ ル オ モ オ キ セ メ オ モ ヘ

ヤ ヨ フ タ 一 オ ヤ ニ ョ ク ツ カ ハ ツ マ チ

ズ ク ナ ス ナ ホ ニ ソ ノ 一 ウ ハ ノ コ コ ロ  
 タ ス ケ カ ジ ニ モ イ サ 一 シ ミ テ ヒ マ ア

ガ ケ バ タ ゲ イ 一 ナ ノ ミ ミ ノ カ ズ ロ イ ズ ロ

ニ

眉目よきも何かせん、心ばへ、おこなひぞ。  
 德をこそ、磨けやよ。

人の身を思ひやり、言葉少な、すなほに、  
 その上の心がけ、たしなみのかずく。

とつぎては人の妻、やがて又、母となる。

重き責、思へやよ。

兩親によく事へ、夫を助け、家事にも、  
 いそしみて間暇あらば、藝の道いろく。

## 第二十 女子の務

桑田春風

No. 21. 舞 踏

舞  
踏

A musical score for 'Xiaoyao Yu' (快活三) in staff notation. The score consists of two staves. The top staff starts with a treble clef, a key signature of one flat, and a 2/4 time signature. It features a melodic line with eighth-note patterns and a bass line below it. The bottom staff continues the melody with a bass clef, a key signature of one flat, and a 2/4 time signature. The music concludes with a final cadence.

(一) ウタヘヨマヘヨテブリアケハキセト  
(二) ウケヒスキナケホケキヨ

A musical score for a vocal piece. The staff uses a treble clef and a common time signature. The lyrics are written below the notes in Japanese: アシドリソロヘカラクコソビ. The melody consists of eighth and sixteenth note patterns.

ア ウ シ メ ド ガ リ エ ソ ヨ ソ ロ ハ ハ カ ナ ク ガ コ ヤ ソ ド

A musical score for 'Tefuri' featuring a single melodic line on a staff. The music is in common time, with a key signature of one flat. The lyrics are written below the notes, enclosed in three sets of brackets. The first set of brackets covers the first four measures, the second set covers the next five measures, and the third set covers the final three measures.

テ フ ヨ ト リ ヨ ハ ソ デ フ リ ャ テ  
ヽ フ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ

五一

A musical score for 'Yamato' featuring a single melodic line on a staff with a treble clef. The music consists of six measures. The lyrics are written below the notes in Japanese. Measure 1: ワ、レ、ラ、ト、モ、ニ。 Measure 2: ロ、レ、ニ、モ、カ、セ。 Measure 3: ヨ、マ、ハ、ソ、デ、チ。 Measure 4: ヨ、マ、ハ、ソ、デ、チ。 Measure 5: ヨ、マ、ハ、ソ、デ、チ。 Measure 6: ヨ、マ、ハ、ソ、デ、チ。

ヤ、チ、ヨ、テ、ヘ、ソ、ハ、ハ、モ、モ、ニ、ラ、レ、レ、ロ、ワ

二

歌へよ、舞へよ、手振あはせ、  
足取そろへ、かくこそ。  
われらと共に舞へよや。」  
「復唱

蝶  
鶯  
來鳴け、  
ほけきよけきよと、

梅が枝こそはなが宿。

よ、鳥よ、  
われにも借せよ、  
羽袖を。」  
「復唱

第廿一

# 舞

踏



桑田春風

舞  
踏

No. 22. 如意輪堂

如意輪堂

悲壯ニ

(一) カシコキミコエミニハアレドヲ  
 (二) ハナチモマタデヨシノノヤマヲ

イキテカヘラヌコタビノイクサ  
 イテユク・テハシテウノイナハテ

ニヨイリノホトケモシロシメセヤト  
 リギハキヨケキシコロシノハナハ

ソノナチトドムルケッシノイウマシレ  
 トコシヘクチセヌサイゴノホマシレ

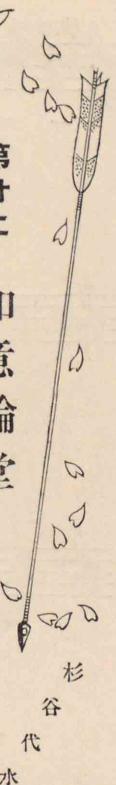
五三

かしこき御聲、耳にはあれど、  
 生きて歸らぬ　こたびの軍。  
 如意輪の佛も　知ろしめせやと、  
 その名をとどむる　決死の勇士。』

二  
 花をも待たで　芳野の山を、  
 出で、ゆくては　四條の畷、  
 ちりぎは清けき　心の花は、  
 とこしへ朽ちせぬ　最後の譽。』

如意輪堂

五二

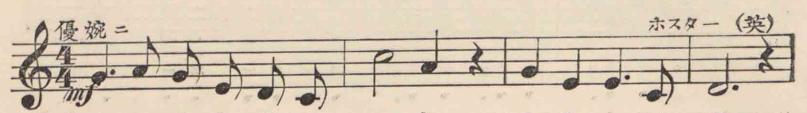


杉谷代水

No. 23.

### 雪中の梅

雪中の梅



(一) ミヨフリツムユキノモヤマモ  
(二) ミロフブキノマドキモ力キモ



ミナヒトイロタグウヅメテシロシ  
ミナマシロニタマカトキヨシ



イサヅクレヤハウナメミハナワカズレ



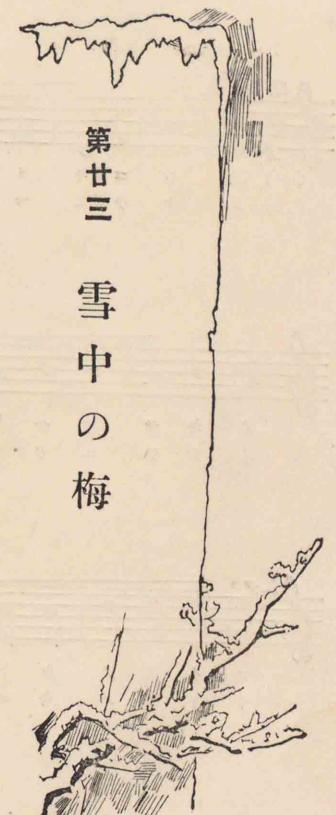
ユキハラハバグニタユメガカズスル  
ソコカニコソタデユキフルニハニ

五五

ホスター(英)

一 見よ、降りつむ雪、野も山も、  
みな一色、ただ、埋めて白し。  
二 見よ、吹雪の窓、木も垣も、  
みな眞白に、只、玉かと清し。  
咲くや梅、花、いづれ、  
其處香にこそ立て、雪ふる庭に。』

見も分かず、  
梅が香ぞする。』



雪中の梅

第廿三

### 雪中の梅

桑田春風

五四

No. 24.

## 鶯

鶯

フラー(英)

軽快ニ

(一) ハナトリ ュカシ ハルトシ ナレバ  
(二) 、 、 、 、 、 、 サリ クレバ

ウメガカ カチリ ウクヒス キーナーク  
タヅネ 、 、 、 、 、 、

ケキヨケキヨ ケキヨケキヨ ホー ホー ホー ホケキヨ  
、 、 、 、 、 、 、 、

ヒカゲチアビテ ノドカニサケル  
マツサキソメシ リガヤノウメノ

チリドノクチノ ウメガエトメテ  
フリヨキエグダチ コトシモヤドト

トキシリガホニ ウクヒス キーナーク  
ロガモノ 、 、 、 、 、 、

五七

(續き)

## 鶯

鶯

ケキヨケキヨ ケキヨケキヨ ホー ホー ホー ホケキヨ  
、 、 、 、 、 、 、 、

一 花鳥ゆかし、春としなれば。  
梅が香かをり、鶯來鳴く。  
ケキヨケキヨケキヨ、ホー ホー ホー ホケキヨ。  
日影をあびて、のどかに咲ける、  
折戸の口の 時知り顔に 鶯來鳴く。  
梅が枝とめて、梅が枝とめで、  
梅が香たづね、春さり來れば、  
梅が香たづね、鶯來鳴く。  
ケキヨケキヨ、ホー ホー ホー ホケキヨ。  
先づ咲きそめし、我が家の梅の、  
振よき枝を 今年も宿と、  
我が物顔に 鶯來鳴く。  
ケキヨケキヨ、ホー ホー ホー ホケキヨ。  
ホー ホー ホー ホケキヨ。

第廿四

## 鶯

鳥居枕

五六

第廿五

## 送別の歌



大和田建樹

一 櫻の苔の 春風に咲くごとく、  
咲き出づる ほまれの

霜を凌ぎ、 雪に堪へ、  
時に逢へる きみが幸、  
花の色香、 あなめてた。

鳥と共に歌ひて、

いざやいざや 祝はまし。』

二 されども年月、 諸共に睦びにし、

この庭を いでのす

今日の別れ、 あな悲し。

別れ行きて その後も、

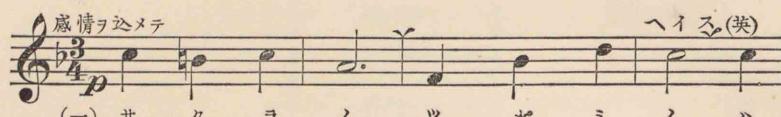
われを教へ 導きて、

あらん限り忘るな、

われも永久に 忘るまじ。』

## 送別の歌

## No. 25. 送別の歌



(一) サ ク ラ ノ ツ ッ ガ ミ ノ ハ モ ヘイる(英)

(二) サ レ ド モ ツ シ ッ キ ノ ヘ モ



ル カ ゼ ニ 一 サ ク ゴ ト ク  
ロ ト モ ニ 一 ム ツ ピ ニ シ



サ キ イ ツ ル ホ マ レ ノ ハ  
コ ノ ニ ハ チ オ テ マ ス タ

六二

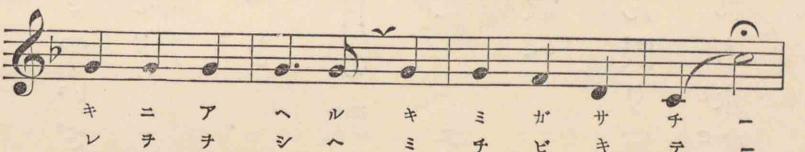


ナ ノ イ ロ カ ア ナ メ デ タ シ  
フ ノ ワ カ レ ア ナ カ ナ シ ヲ

## (續き) 送別の歌



モ カ レ シ ュ ノ ギ テ ユ ソ キ ノ ニ タ チ ヘ モ ト ワ



キ ニ ア ヘ ル キ ミ チ バ サ チ  
レ チ チ ハ シ ヘ ミ チ ビ キ テ チ



ト リ ラ ト ン ト モ ニ カ タ ス ヒ ル  
ア ラ ジ カ ギ リ ウ ワ ス ハ ル テ ナ イ ワ



ザ ヤ モ イ ト ザ ヤ ニ イ ワ ハ ス ハ ル マ マ シ ジ  
レ モ ハ ニ ワ ハ リ ワ ハ リ ワ ハ リ ワ ハ リ

## 送別の歌

六〇

樂典大要

第一錄



## 樂典大要（第一卷）

### 目次

第一章 譜表（五線）	一五
第二章 音名（律名）	一六
第三章 音部記號	一六
第四章 音符	一七
第五章 休符（休止符、默符）	一七
第六章 縱線と小節	一七
第七章 拍子	一七
第八章 強弱記號	一八
[備考]	一八

## 樂典大要（第一卷）

### 第一章 譜表（五線）

併行水平にして、等距離に並べたる五本の直線は、之を

譜表（Staff.）と云ふ。（第一圖）

譜表は、線上及び線間を使用す。この各線及び各間は、音樂上之を度（Degree.）と稱す。

譜表は、専ら音の高低の位置を示すものとす。即ち、其度の上の位置にあるほど、高き音を表はすものなり。而して、あらゆる記號は、皆この五線に記するものなれば、譜表は、實に樂譜の土臺となるものなり。

譜表の直上及び直下は、其儘位置と見做して使用す。な

ほ、其上下に位置を要する時は、五線に併行せしめて、短線を加設するものとす。之を加線 (Added line.) と云ふ。[第二圖]

(1) 譜表の線及び間は、下より上に數へて其名稱とす。即ち第一線より第五線第一間より第四間に至る。

(2) 加線は、五線の太さよりも少しく太く記するを可とす。

(3) 加線は、それらの音を要する時にのみ之を設く。

(4) 譜表の上部なる加線は、下より上に數へて、上一間、上一線等の如く之を唱へ、其下部のものは、上より下に數へて、下一間、下一線等の如く唱ふるものとす。

(5) 一個の譜表を、直線と鉤とを以て連合したるものあり。之を大譜表 (Grand staff.) と云ふ。而して、二個以上數個の譜表を連合したものは、之を連合譜表 (Score.) と云ふ。

## 第二章 音名 [律名]

音名 音名 音名

譜表の各位置を定め附したる名稱を音名 (Name of tone.) と

云ふ。

音名には七個の名稱あり。この個數は、各國とも皆同一にして、この七音の反復重用により、あらゆる各位置の名稱を定む。左に日本音名と、英・米・獨の音名とを對照して示さん。

〔七個の音名〕	
ト・ヘ・ホ・ニ・ハ	ロイド・ヘ・ホニハ
ト・ヘ・ホ・ニ・ハ	(ロ) (イ) 日本
G F E D C	B A G F E D C
G F E D C	(B) (A) 英・米
H A G F E D C	(H) (A) 獨逸
H A G F E D C	(ア) ガー エフ エー デー チェー

猶、この音名を譜表に排記すれば、左の如し。[第三圖]

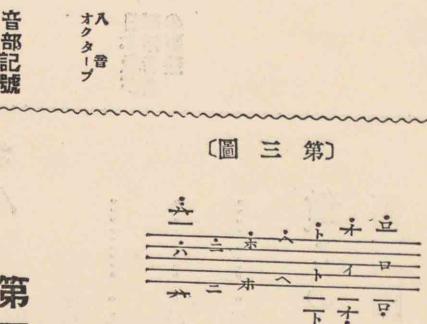
第三圖の如く、七個の音名より高き位置には上に、これより低き位置には下に、小さき圓點を附して、之を區別するものとす。[第三圖]

(1) 歐洲の音名は、アルハベットの首句七文字を使用せり。我國の音名は、之に準じて、イロハの首句七文字を採用せるものなり。

(2) 音名は「ハ」即ち「C」より始まる約束とす。

(3) 音名は、譜表の位置に附せるものなれば決して移動することなし。學習者は、音名と階名との區別を、よく會得すべし。

(4) 同名の二音、例へば「ハ」と「・ハ」、「ニ」と「・ニ」との如き二音は、之を八音(Octave.)と云ふ。



〔圖三 第〕

### 第三章 音部記號

加線を増設する時は、一個の譜表を用ひて、如何なる高音をも記載し得べし。されど、かくては音名の識別上(讀譜上)頗る困難なるを以て、高音を記載すべき譜表と、低音を記載すべき譜表とを區別して、使用するに至れり。之を

區別せんために、左の記號を譜表の首端に附す。之を音部記號(Clef.)と云ふ。(第四圖)



〔圖四 第〕

(甲)は、即ち高音を記載すべき譜表を定むる記號なるを以て、之を高音記部號(Treble clef.)と云ふ。而して、この記號は「ト」音(即ち第二線)を目標としたるが故に、又之をト字記號とも稱す。

(乙)は、低音を記載すべき譜表を定むる記號なるを以て、之を低音部記號(Bass clef.)と云ふ。而して、この記號は「ヘ」音(即ち第四線)を目標としたるが故に、又之をヘ字記號とも稱す。

(1) 高音部記號を附したる譜表を高音部譜表と云ひ、低音部記號を附したる譜表を低音部譜表と云ふ。

(2) 前述したる二種音部記號の外に、中音部記號と稱するものあれど、

近來は、之を使用するもの亟めて希なり。

(3)單音唱歌の場合には、男女聲共に、便宜上、高音部譜表に記載す。(此場合には、男聲は、實際記載されたる音度より、八音低く唱ふるものとす。されば、成人したる男聲は、低音部譜表に記するを正當とする。)

(4)複音唱歌に於て男女合唱の場合には、各音部によりて記するものなり。即ち、女聲を高音部譜表に、男聲を低音部譜表に記載するものとす。此場合に用ふる譜表を大譜表と云ふ。(第一章二三)

5) 各音部記號は、五線の變る毎に、其首端に於て、必ず之を記する約束なり。

(6) 學習者は、譜表上の音名を早く記憶せんことを要す。而して、之を知らんには、高音部譜表に於ては、先づ「ト」又は「ハ」を、低音部譜表に於ては、先づ「ヘ」又は第一線の「ト」を記憶し、これより上下共に、順を逐ひて數ふるを便とす。

(7) 學習者は、又「ト」字記号及び「ヘ」字記号の記載法を練習すべし。

第四章 音符

音の長短を表はす記號は、之を音符 (Note.) と云ふ。

[甲]單純音符、[乙]附點音符、の二類あり。

單純音符

〔圖五第〕

(符 音 純 單)

名稱	形狀	時間の割合
全音符	●	四拍
二分音符	○	二拍
四分音符	○	一拍
八分音符	○	半拍
十六分音符	○	八分の一拍
卅二分音符	○	四分の一拍

單純音符 (simple note) と云ふには、又六種あり。其形狀、名稱及び、時間の割合は上圖の如し。〔第五圖〕

音符の長短(即ち時間)を計るには、拍數(鞭又は手掌を「一度下げて 一度上ぐる」を一拍とす。)によ

通常使用する單純音符には、又六種あり。其形狀、名稱及び、時間の割合は

音符の長短(即ち時間)を計るには、拍數(鞭又は手掌を一度下げて一度上ぐる)を一拍とす。によ

りて之を定む。

音符の白・黒・楕圓は、之を符頭と稱し、直線と鈎とは、之を符尾と稱す。

○第五圖は、四分音符を一拍となしたる場合なり。  
圓點を附帶せる音符を附點音符 (Dotted note.) と云ふ。〔第六圖〕

附點音符は、單純音符の符頭の右傍に、圓點を附して之を構成す。而して、之に一點を附するものと、二點を附するものとの二種あり。

單純音符の符頭の右傍に、一點を附したるものは、之を單附點音符と云ふ。この附點は、單純音符の二分の一の音長なり。

通常使用する單附點音符には、左の五種あり。〔第六圖〕

單附點音符の附點の右傍に、更に一點を加へたるもの

符複附點音

〔圖六第〕  
(符音點附)

單附點全音符	$\textcircled{o} = (\textcircled{o} + \textcircled{o})$
單附點二分音符	$\textcircled{p} = (\textcircled{p} + \textcircled{p})$
單附點四分音符	$\textcircled{\textcircled{p}} = (\textcircled{p} + \textcircled{p})$
單附點八分音符	$\textcircled{\textcircled{\textcircled{p}}} = (\textcircled{\textcircled{p}} + \textcircled{\textcircled{p}})$
單附點十六分音符	$\textcircled{\textcircled{\textcircled{\textcircled{p}}}} = (\textcircled{\textcircled{\textcircled{p}}} + \textcircled{\textcircled{\textcircled{p}}})$

は、之を複附點音符と云ふ。  
而して、この附點は、單附點音符の附點の二分の一の音長なり。故に、複附點全音符は、全音符と二分音符と四分音符とを合計したる音長なり。即ち  $\textcircled{o} : \parallel (\textcircled{o} + \textcircled{o} + \textcircled{o})$  の如し。

(1) 普通用の複附點音符は、全音符より八分音符に至る四種の音符に、二個の點を加へて構成するものとす。

(2) されど、複附點音符は、極めて稀に之を使用するものとす。故に、單附點音符を稱して、單に附點音符と稱するを常とす。

(3) 各種の音符は、符頭の占むる位置を以て、其附せられたる位置とな

す。學習者は各種の音符を、線上又は間に記載する練習を力むべし。

(4) 附點は、決して線上に記さぬ約束なり。即ち間に符頭のある時は、之と並べ、符頭の線上にある時は、其上部の間に附するものとす。

(5) 符尾の直線の長さは、三間に亘るを以て普通とす。而して符尾の鈎は、其記載法に種々あり。(以下各章参照)

(6) 符尾の直線は、之を符頭の上部に附するも、亦其下部に附するも隨意にして、其價值には關せず。されど、單音唱歌の場合には第三間より上位に符頭ある時は、直線を下部に附し、第二間より下位に符頭ある時は、之を其上部に附す。而して、中央なる第三線に符頭のある時は、曲節の都合によりて、之を何れに附するも可なり。これ普通の記載法とす。

## 休符

### 第五章 休符 (休止符・黙符)

樂曲の進行中、聲音の休止を要することあり。この休止を表はす記號を名づけて、休符(Rest.)と云ふ。(第七圖)



通常使用する休符にも、亦〔甲〕單純休符、〔乙〕附點休符の二種あり。

單純休符の形狀は上圖の如し。

附點休符には、又、單附點休符と複附點休符との二種あり。

休符は、音符と同一關係にて構成せらる。故に、其種類、時間の割合及び其名稱等は、茲に其説明を省きたれど、推して知らるべし。

(1) 複附點休符は、實際上に使用することは、極めて稀なり。

(2) 學習者は、單純休符の記載法、並に附點休符の構成法につきて、各自練習すべし。

(3) 四分休符には、♪の記號をも使用したれど、八分休符との混雜を避

けん爲に、最近に於ては、第七圖のものをのみ使用するに至れり。

### 節縦線と小

樂曲は、同一なる時間にて進行すべき小部分に分たる。之を分つ縦線を名づけて單縦線(Simple bar.)と云ふ。〔第八圖〕單縦線と單縦線との中間を小節(Measure.)と云ふ。即ち、第八圖は四小節なり。」

各小節内の時間は、皆等一なるべきものとす。されど、其音符及び休符の種類及び個數は、之を等しくすることを要せず。

(1) 各小節内の時間には、休符も其合計に入るゝものとす。



(2) 最前・最後の小節には、往々不足の時間を示すことであり。これは、不備小節と唱へ、最前・最後の二小

節を合して、一小節と見做すものとす。なほ、等一時間の各小節は、之に對して正格小節と云ふ。

樂曲の終止を示すには、外方の一本は太く、内方の一本は細き二個の縦線を用ふ。之を複縦線(Double bars.)と云ふ。〔第八圖〕

複縦線は、又樂曲の中間に用ふることあり。此場合には、二本とも同一の太さにて記するを常とす。而して、この複縦線の用法には、なほ種々あれども、そは後章に説くべし。

〔第二卷、第十一章参照〕

### 第七章 拍子

樂曲は、之を唱奏する時、一小節毎に必ず一定の強弱の表はれつつ進行すべきものとす。かく一定の強弱ありて進行することを、音樂上之を拍子(Time.)と云ふ。

樂曲には、一小節内に、強・弱の單位を以て進行するもの

と、強・弱・弱の單位を以て進行するものとの二種あり。於是、樂曲の拍子は、左の二類に分たる。

- [甲] 平等拍子** [強・弱の單位を以て進行するものを云ふ]  
**[乙] 不等拍子** [強・弱・弱の單位を以て進行するものを云ふ]
- 樂曲の拍子は、之を一目して判明ならしめんがため、常に音部記號の直次に於て、分數若くは略記號を用ひて、表示するものとす。之を拍子記號と云ふ。

平等拍子 (Equal time.) は、〔又、普通拍子 (Common time.) とも稱し〕一及び四の拍數を以て進行するものなり。之を分ちて、更に、二拍子・四拍子の二種とす。

二拍子は、一小節内に強・弱の二拍を以て進行するものなり。最も普通用のものを、左の二種とす。

**[イ] 二分の二拍子** 〔一小節内に、一分音符二個又は之と同値

なる諸音符を有す。〕

**[ロ] 四分の二拍子** 〔一小節内に、四分音符二個、又は之と同値なる諸音符を有す。〕

二分の二拍子 は、 $\frac{2}{2}$ 、

又は  $\textcircled{\text{E}}$  (Alla breve.) なる二種の記號を以て其拍子記號とし、〔第九圖〕

四分の二拍子 は、 $\frac{2}{4}$  なる一種の記號を以て其拍子記號とす。〔第十圖〕

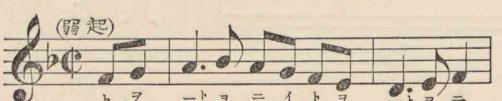
四拍子 は、一小節内に、強・弱・中強・最弱の四拍を以て進行するも

### 四拍子

### 拍子の二

### 拍子の二

〔圖九 第〕



〔圖十 第〕



のなり。最も普通用のものを左の二種とす。

(イ) 四分の四拍子。〔一小節内に、四分音符四個、又は之と同値なる諸音符を有す。〕

(ロ) 八分の四拍子。〔一小節内に、八分音符四個、又は之と同値なる諸音符を有す。〕

(ア) 四分の四拍子。〔一小節内に、四分音符四個、又は之と同値なる諸音符を有す。〕

拍子  
四分の四

拍子  
八分の四

〔圖一十第〕



〔圖二十第〕



四分の四拍子は、 $\frac{4}{4}$ 、又はCなる二種の記號を以て其拍子記號とし、〔第十一圖〕。八分の四拍子は、 $\frac{4}{8}$ なる一種の記號を以て其拍子記號とす。〔第十二圖〕

(1) 四拍子には、此他、二分の四拍子あり。〔東京音樂學校編、中等唱歌の「護良親王」是なり。〕

(ア) 一分の二拍子・二分の四拍子は、二

分音符を以て一拍とし、四分の二拍子・四分の四拍子は、四分音符を以て一拍とし、八分の四拍子は、八分音符を以て其一拍とするなり。

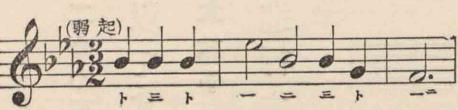
不等拍子 (Unequal time.) は、〔又、三進拍子 (Triple time.) とも稱し〕〔三及び六の拍數を以て進行するものなり。之を分ちて、更に、三拍子・六拍子の二種とす。〕

三拍子 は、一小節内に、強・弱・弱の三拍を以て進行するものなり。最も普通用のものを、左の二種とす。

(イ) 二分の三拍子。〔一小節内に、二分音符三個、又は之と同値なる諸音符を有す。〕

拍子  
四分の三  
拍子  
二分の三  
拍子  
三拍子  
不等拍子  
ルタイムクオーラ

〔圖三十第〕



〔圖四十第〕



に、四分音符三個、又は之と同値なる諸音符を有す」

二分の三拍子は $\frac{3}{2}$ 、四分の三拍子は $\frac{3}{4}$ なる各、一種の記號を以て其拍子記號とす。〔第十三圖及び第十四圖〕

### 六拍子

六拍子は、一小節内に、強・弱・弱・中強・中弱・最弱の六拍を以て進行するものなり。最も普通用のものは、左の一種とす。

八分の六拍子。

〔一小節内に、八分音符

六個又は之と同値なる諸音符を有す。〕

八分の六拍子は、 $\frac{6}{8}$ を以て其拍子

記號とす。〔第十五圖〕



〔圖五十第一〕

(1) 六拍子には、時に四分の六拍子あり。  
〔東京音樂學校編、中等唱歌の「亡友の

寫眞是なり。〕

(2) 二分の三拍子は二分音符を、四分の  
三拍子は四分音符を、八分の六拍子

は八分音符を以て、各、其一拍とするものとす。

以上述べたる拍子の各種類は、最も普通に用ひらるゝものにして、之を一括して表に示せば左の如し。

○拍子の種類	平等拍子	不等拍子
單位	三拍子〔二分の二拍子…… $\frac{2}{2}$ C ～強弱	強弱の單位
強弱の單位	三拍子〔二分の四拍子…… $\frac{4}{4}$ C ～強弱・中強・最弱	弱強弱
四拍子〔四分の四拍子…… $\frac{4}{8}$ C ～強弱・中強・最弱	三拍子〔二分の三拍子…… $\frac{3}{2}$ C ～強弱弱	六拍子八分の六拍子…… $\frac{6}{8}$ C ～強弱弱

〔例題〕

(1) 學習者は、各種の拍子に屬する音符構成の練習をなすべし。

(例題) (イ) 四分の四拍子に屬する音符(又は休符を用ひて)を、譜表の

第二線上に六小節作れよ。

(ロ) 四分の二拍子に屬するものを、譜表の第三間に四小節作れよ。

(ハ) 四分の三拍子に屬するものを、譜表の第三線上に六小節作れよ。

作れよ。

(ニ) 八分の六拍子に屬するものを、八分音符を弱起として、譜表の第一線上に四小節作れよ。

(以上の一例題は、各小節に於て、音符の個數を異にするを要す。  
(2) 學習者は、例に掲げたる各拍子の曲節につきて、拍子を勘定することを理解しがつ、強弱を附して唱ふることの練習を力むべし。

## 第八章 強弱記號

### 強弱記號

拍子に於ける強弱の外、樂曲には、猶その一部分、又は數小節に亘りて、特に強弱を附することあり。此場合に用ふる諸記號を強弱記號と云ふ。

[略號] [術語](伊語)

[意義]

(piano).....	弱
(pianissimo).....	最も弱く

強	最も強く
---	------

記號	記號
----	----

ff. f. mf. mp.  
 (Mezzo piano)..... 中弱に 中等記號  
 (Mezzo forte)..... 中強に 中等記號  
 (Forte)..... 強  
 (Fortissimo)..... 最も強く 強記號  
 又は Cresc. (Crescendo)..... 漸次に強く  
 (又は Decresc. (Decrescendo))..... 漸次に弱く  
 (又は Dim. (Diminuendo))..... 前二個の場合を合せたるものなり。  
 ハハ又は sf. (Sforzando) 又は Ac. (Accent) 共に同義なり。  
 ○又特に弱くせんには、其音符の上又は下に、一部分の強弱に用ふる  
 略號 p. 又は pp. を用ふることあり。

樂曲中、一聲音に限り、特に強く奏唱せんには、其音符の上又は下に、左の諸記號を用ふ。

[備考] 本書の樂譜に表はれたる諸記號にして、以上述べ

たる外に、猶左の諸記號あり。

(一) (々) 又は (ゝ) は、氣息をつぐべき場所を示したるものなり。〔例、殆んど全歌曲に亘る。〕

(二) ||:|| は反復記號、「雲雀」の如く、最初に反す場合には、略して ||のみを用ふ。〔例、第廿一番〕

(三) 度を異にせる二個の音符に加へたる弧線は、之をスラーゼム(連結)と稱し、連結したる二音を、音の切れざる様に唱奏すべき記號なり。〔例、第五、第六、第十番等。〕

(四) 乃是延長記號と云ふ。附せられたる音符の固有時間より、特に延長するものなり。〔例、第十七、第廿五番等。〕

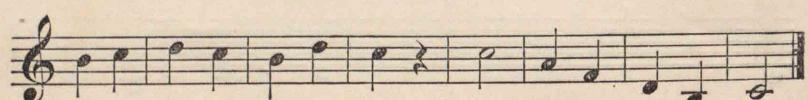
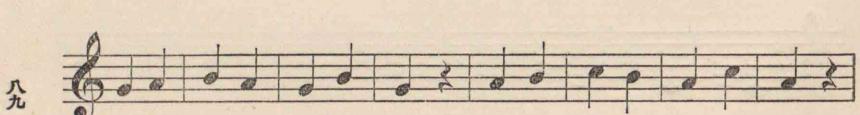
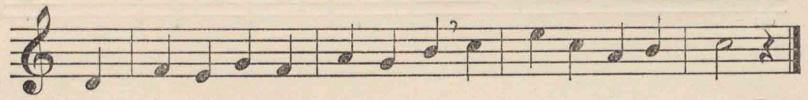
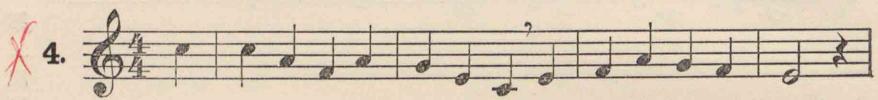
(五) #は嬰記號、♭は變記號、ヰは本位記號と稱す。共に第二卷に説くべし。

## 樂典大要

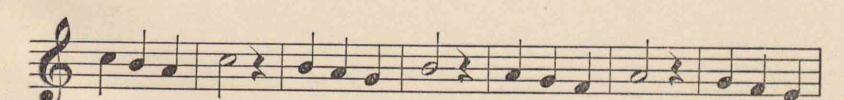
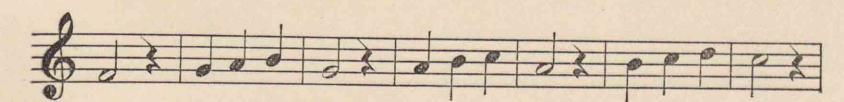
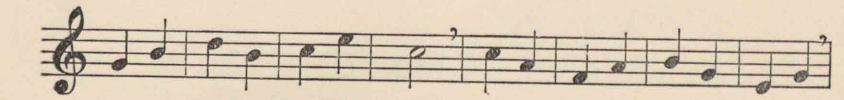
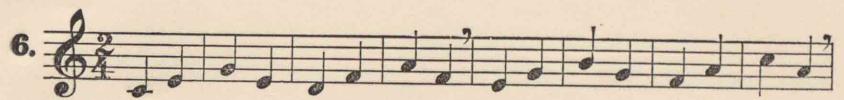
〔第一卷終〕



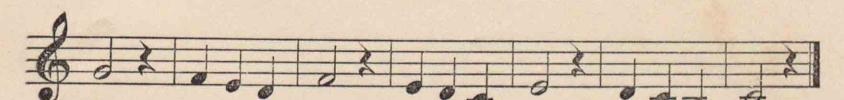
第三度音程



卷之一附錄 第三度音程

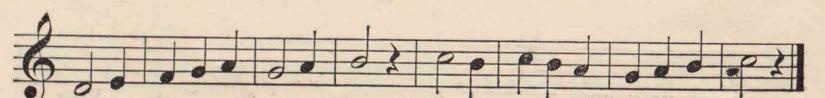
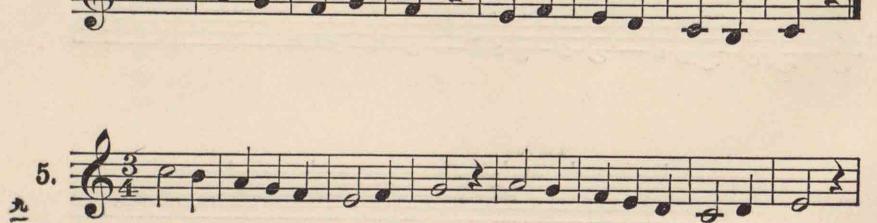
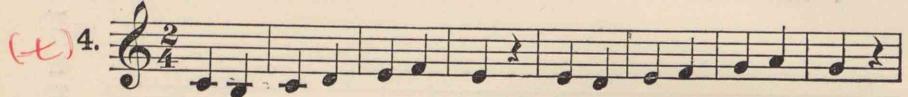


八

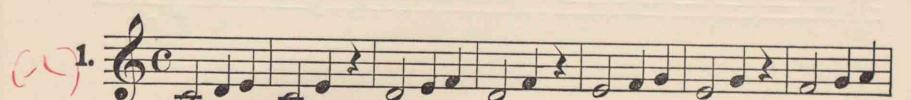




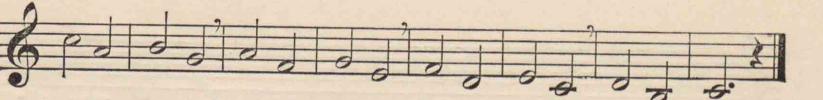
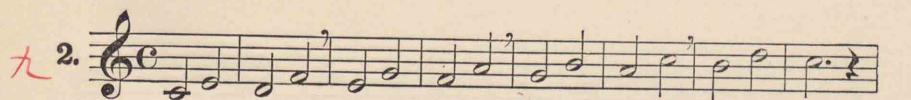
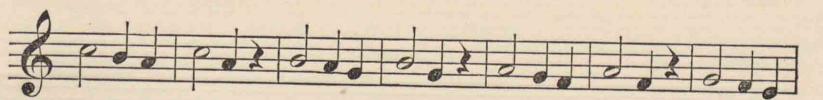
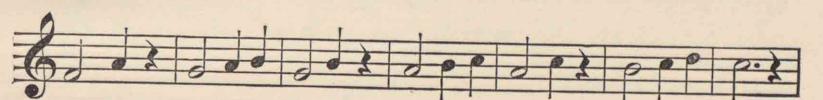
第二度音程



(第三度音程)



卷之一附錄 第三度音程



4.

アア アア アア アア アア アア アア アア アア

5. **發聲練習**

(ア エ オ) アエ アエ アエ アエ アエ

アエ アエ アエ アエ アエ アエ

アエ アエ アエ アエ アエ アエ

6.

(ア オ ウ) アエイ アエイ アエイ アエイ アエイ

アエイ アエイ アエイ アエイ アエイ

アエイ アエイ アエイ アエイ アエイ

九三

音程練習

[第二度音程]

長二度 同 短二度 長二度 同 同 短二度

(一音) (同) (半音) (一音) (同) (同) (半音)

卷之一附錄 第二度音程

1. (四)

2. (五)

九二

長音階練習

### (各種音符應用)

長音階練習

- 音階練習

1.

一二三四

2.

一二三四

3.

一二三四

4.

一二三四 一二三四 一二三四

(一) 5.

一二三四

6.

一二二二

(二五九) 7.

一二二二

(三) 8.

一二二二

卷之一附錄 發聲練習

## 發聲練習

- A handwritten musical score consisting of three staves. Staff 9 starts with a treble clef, a 2/4 time signature, and a key signature of one sharp. It contains six measures of music. Staff 10 starts with a treble clef, a 2/4 time signature, and a key signature of one sharp. It contains five measures of music. The notation includes various note values such as eighth and sixteenth notes, rests, and dynamic markings like accents and slurs.

- 聲練習

發聲練習

1.

2.

3.

4.

濟定檢省部文  
明治校及高五等音  
日三月五年女學用科樂

有所權作著



明治四十三年八月三十日印  
明治四十三年九月二日發行  
明治四十五年四月廿八日訂正再版印刷  
明治四十五年五月一日訂正再版發行

教科統合文學唱歌卷一  
定價金四拾錢

著作者 田 村 虎 藏

發行者

東京市日本橋區新右衛門町十六番地  
株式會社國定教科書共同販賣所

代表者

大 橋 新 太 郎

印刷者

東京市京橋區築地三丁目十一番地  
株式會社東京築地活版製造所

印刷所

東京市京橋區築地二丁目十七番地  
株式會社東京築地活版製造所

發行所

東京市日本橋區新右衛門町十六番地  
株式會社國定教科書共同販賣所

## 附錄第二

- (1) 長音階練習(各種音符應用)
- (2) 發聲練習{自一音至三音}
- (3) 音程練習{第一音二度音，第二音三度音，第三音四度音}

卷之三

清江先生集

卷之三

清江先生集

明月照

明月照

明月照

明月照

明月照

清江先生集

清江先生集

清江先生集

清江先生集

清江先生集

清江

清江

清江





広島大学図書

2500300171



庫

12  
71